

■安良城盛昭 歴史学者。経済学部の卒論で歴史学界に旋風巻き起こし、地主論、琉球史から天皇制へと独自の論陣。

あらかきもりあき

金融恐慌・・・1927＝ 東京に生まれる。

満州事変・・・1931＝ 4歳：

二二六事件・1936＝ 9歳：

日中戦争始・1937＝10歳：

日米開戦・・・1941＝14歳：

敗戦・・・1945＝18歳：

独立回復・・・1951＝24歳：

テレビ放送始・1953＝26歳：*東京大学(旧制)経済学部を卒業。卒業論文が「歴史学研究」誌上に「太閤検地の歴史的前提」上・下、「太閤検地の歴史的意義」として発表されると、学界に「安良城旋風」(服部之総の評言)を巻き起す。

自衛隊発足・1954＝27歳：

論争の中で研究を進展させ、日本前近代史の時代区分についても独自の所論を展開した。

国連加盟・・・1956＝29歳：以降は地主制論争に加わりつつ、成立期地主制の研究に没頭、

美智子妃・・・1959＝32歳：太閤検地等の研究の中心的部分は、「幕藩体制社会の成立と構造」としてまとめられた。

安保闘争・・・1960＝33歳：東京大学社会科学研究所助教授、

TV宇宙中継始1963＝36歳：

全共闘・・・1969＝42歳：_前著に収め切れなかった研究や反論をまとめて「歴史学における理論と実証」、

日中国交回復1972＝45歳：

石油ショック1973＝46歳：*沖縄大学法経学部教授になって赴任すると、

_沖縄全域を踏査し、新発見の史料も加えて、沖縄史の再構成を試みて、

成田衝突・・・1978＝51歳：_同大学学長・嘉数学園理事長、

貿易摩擦始・1980＝53歳：大阪府立大学総合科学部教授。「新・沖縄史論」、

・・・1981＝54歳：*「琉球における地割制度の起源と変遷」をはじめ、琉球・沖縄史に関する研究を発表。

中曽根内閣・1982＝55歳：

大阪に赴任後、部落問題の起源の研究に着手し、「社会的身分」と「制度的身分」という分析概念に立って論点を開示したが、研究を果せず終った。

バブル始・・・1986＝59歳：昭和天皇在位六十周年を前に天皇美化の動向が進み、

_さらに天皇の病气から、

昭和天皇没・1989＝62歳：_死没と、その後つぎつぎに行われた代替りの諸儀式をめぐって天皇問題に関心が高まると、天皇と天皇制について論陣を張り、それらをまとめて

ドイツ統一・・・1990＝63歳：*「天皇・天皇制・百姓・沖縄」を刊行。成立期地主制の研究成果も「天皇制と地主制」としてまとめ、

ソ連崩壊・・・1991＝64歳：_退職して、同大学名誉教授となり、

55年体制終・・・1993＝66歳：_没した。

日本前近代史の時代区分についての所論は、古代律令制をアジア的な総体的奴隷制、中世荘園制を家父長制的奴隷制、近世幕藩制を農奴制とし、太閤検地を生産様式の交替に対応した変革的圧地政策とするもので、「安良城理論」といわれる。